



Revive as resources.

世界最大級の古着再生工場ってどんなところ？

創業は1977年。リサイクル天国ドイツで誕生したSOEX社は、繊維リサイクルにおける世界的なリーディングカンパニーグループである。現在は90ヶ国で事業を展開し、毎日700トンもの繊維製品を処理・加工している。また、グループ子会社のICO（アイコ）社は、Levi's®やRight-Onといった数多くのアパレル企業と提携。店舗などに設置する独自の回収ボックス「ICOボックス」のシステムにより、日本はもちろんのこと世界中の提携企業から大量の古着を回収できるようになった。

『昔からSOEXとお付き合いさ



ていただいているんですが、この再生技術と工場の規模は本当にすごいんですよ。古着から反毛（繊維を綿状に戻すこと）を作ってメルセデス・ベンツやBMWといった大手自動車メーカーに卸しているんです。それは車の断熱材

上・回収した古着が熟練スタッフの手により素材ごとに仕分けされる。下/サッカーコート13個分にもなる広すぎる工場内には、何十ブロックもの作業場が。

などに利用されています。また固形燃料としてのリサイクルも行っているようです。工場を見学させていただいたことがあるんですが、膨大な量の古着を仕分けする工程などスケールに圧倒されます」(t pirrag・オーナー榎木勝也さん談)



Legend of the vintage trade.

ヴィンテージ界の生ける伝説ポビー・ガーネットを知っているか？

そのお店、その人物を自覚して世界各国からファッション関係者がボストンを訪れる。(ポビー・フロム・ボストン)。業界の重鎮ポビー・ガーネットが経営する伝説的ヴィンテージショップだ。1960年代当時、ヴィンテージウェアの概念がほとんど浸透していない頃からキャリアを積んできたポビーは、50年以上この世界に君臨する最重要人物である。

車椅子生活になった今でも現役でバイキングを行い、生ける伝説としてラルフ・ローレンも一目置く存在に。ボストン市街地の北東部にあるショップでは、ワークやミリタリーのほか、プリティッシュなジュエントルマズンアイテムも豊富に展開する。ニューヨークカルチャーを牽引する人気店（フーマンズ スポーツクラブ）には、そんなポビーのショップから仕入れたヴィンテージが並んでいるのは有名な話だ。

またポビーのもとから輩出していた有名人も少なくない。ファッションデザイナーのジェイ・サバティーンもその一人である。

ジェイ・サバティーンが語るポビー・ガーネットという男。

「今の店の前身であったポビーのヴィンテージショップで、90年代前半に働いていました。そこでヴィンテージの基礎を多く学んだんです。まるで大学で古着の授業を受けている、そんな感じでしたよ（笑）。古着に命を吹き込めようというが、価値を見出すのがポビーのすごさだと思います。何百人もの人に影響を与えた偉大な人物です。」

ジェイ・サバティーン

ポビーのもとでヴィンテージ・バイヤーとしてキャリアをスタート。2005年に自身の名前を冠したブランド（J・サバティーン）を設立。その後15年に新ブランド（メンテナント）を始動。



2005年創業。現在では国内59店舗、海外8店舗まで成長。こちらは足立区北条。●東京都足立区江北3-37-20 03-5838-0671。10時~21時。無休。

Happiness on weekly wednesday.

待ては待つほどお得？ 毎週水曜日のギャンブルショッピング。

世界にはさまざまなヴィンテージビジネスが存在しているが、我が国日本でもかなりユニークな発想で古着を販売するお店がある。

それが〈ドンドンダウン オン ウェズデイ〉だ。その名の通り、毎週水曜日を迎えるごとに店内商品がブライスタウン/ 回転の速

い古着を鮮度が命の野菜や果物に見立て、通称「野菜タグ」にて10種類に分類。10段階方式で、例えば現在2,000円ランクのものにジャンタグの商品であれば、翌水曜日には1,500円、その翌週には900円。そして最終的には100円まで値下がり続ける。買う側は、欲しい商品が希望の金額に値下がりするまで待つ。それとも売れてしまう前に自分のものにするのか。そのゲーム感覚の駆け引きを楽しめるというわけ。

また、買い取り率は100% / 持ち込まれた衣料品はすべて買い取るのがこのお店のポリシー。店頭に出べられないものや売れ残りは、海外輸出用に再利用されるといった無駄のないシステムなのだ。

